

# THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや  
ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ  
承認 1982年 8月24日  
例会日 火曜日 12:30  
例会場 愛知厚生年金会館  
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121  
会長 宮尾 紘 司  
幹事 水谷 祥 督  
広報・会報委員長 伊藤 健 文

No. 14

ロータリーは分かちあいの心

ROTARY SHARES

2007~2008年度 RI会長 ウィルフリッド J.ウィルキンソン

きょうの例会

第1201回 平成19年10月23日(火)  
優良従業員表彰

先週の記録

第1200回 平成19年10月16日(火)  
創立25周年記念式典・祝賀会  
愛知厚生年金会館 鳳凰の間

記念式典の部



足立会場運営委員長の進行

◆鈴木実行委員長の創立25周年記念式典の開会宣言  
◆竹内第2代会長より物故会員の紹介



堀場利幹君・古川勝巳君  
武内 清君・林 淳三君  
渡辺辰夫君・足立一成君  
加藤大豊君・山田壽勝君  
水野民也君・池田 隆君  
大谷和雄君・成田良治君

以上12名の皆様と退会後に亡くなられた方も多く、共にご冥福を祈り、黙祷を捧げました。



吉田ソングリーダーにて  
“君が代”“奉仕の理想”

〈来賓御芳名〉



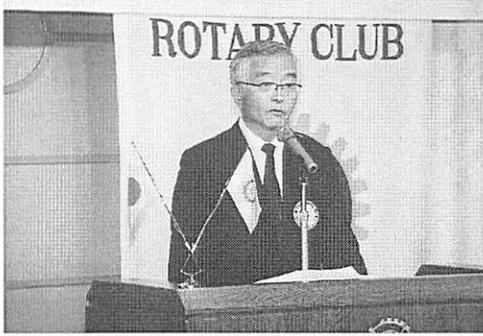
水谷幹事より来賓紹介

- |                    |           |
|--------------------|-----------|
| 国際ロータリー第2760地区ガバナー | 江崎 柳節     |
| 国際ロータリー第2760地区幹事   | 河村 嘉男     |
| 東名古屋分区ガバナー補佐       | 佐藤 正延     |
| スポンサークラブ           |           |
| 名古屋東ロータリークラブ       | 尾関 重雄     |
| 名古屋東ロータリークラブ       | 古川善次郎     |
| 名古屋東ロータリークラブ       | 千田 毅      |
| 東名古屋分区             |           |
| 名古屋北ロータリークラブ       | 会長 中川 正美  |
|                    | 幹事 伊藤 満琉  |
| 名古屋東ロータリークラブ       | 会長 伏原 靖二  |
|                    | 幹事 野田 剛司  |
| 名古屋守山ロータリークラブ      | 会長 齋藤慎一郎  |
|                    | 幹事 橋本 浩一  |
| 名古屋和合ロータリークラブ      | 副会長 加藤 寿彦 |
|                    | 幹事 名倉裕一朗  |
| 名古屋名東ロータリークラブ      | 会長 加藤 常文  |
|                    | 幹事 中村 公彦  |
| 名古屋名北ロータリークラブ      | 会長 松岡 三明  |
|                    | 幹事 山本 篤   |
| 名古屋昭和ロータリークラブ      | 副会長 鈴木 重幸 |
|                    | 幹事 上野 広   |
| 名古屋錦ロータリークラブ       | 会長 小椋 光政  |
|                    | 幹事 日比野啓二  |
| 名古屋東山ロータリークラブ      | 会長 奥村 敦   |
|                    | 幹事 平下 三朗  |
| 名古屋葵ロータリークラブ       | 会長 石田 壽   |
|                    | 幹事 堀口 久   |

ご招待

- |                        |          |
|------------------------|----------|
| キャンヘルプタイランド            | 伊藤 剛史    |
| 桜花学園高校インターアクトクラブ       | 顧問 河合 保昌 |
| 物故者家族(名古屋東ロータリークラブ)    | 水野 茂生    |
| 歴代事務局 近藤十も子・三浦 京子・宮川 薫 |          |

### 宮尾会長挨拶



本日は1,200回目の例会でございませう。この節目に25周年記念式典を催しましたところ江崎柳節ガバナーを始め多数の御来賓の御出席を賜り会員一同を代表して感謝申し上げます。

当クラブは1982年8月16日名古屋東ロータリークラブをスポンサーとして当時260地区では88番目、市内では14番目のクラブとして誕生致しました。本日御出席の尾関重雄様、故水野民也創立会長のお陰で産ぶ声をあげることができました。以来四半世紀、歴代会長・幹事、理事役員、会員の皆様の努力でここまで成長することができました。改めて礎を築かれた皆様、物故会員、並びに会員家族の皆様に感謝申し上げます。

世阿弥は最初の著書「風姿花伝」の中で25才は若々しい盛りの芸の咲き始める頃、天分が現われ始め世間からも一時的に注目を浴び、本人も得意絶頂となることある。この時こそ初心の賜と認識すべきである。これは今の限りの珍しい花であることを悟り、一層稽古に励むべきである。「一時の花をまことの花と取り違ふ心こそ、真実の花をさらに遠ざけてしまう心のあり方なのだ」と言っております。

当クラブも25年間の活動を通して楽しく家族的なクラブとなりました。これを一時の花とせず、真実の花とするようもう一度初心にかえり、千種ロータリークラブの心のあり方を考えてみたいと思います。

鳴長明は「方丈記」の冒頭で「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」と書いております。万物は流転しています。当クラブも会員の入れ替わりがあろうとも、時代の要請が変わろうとも、回りを潤し、回りから愛され、50年、100年と澁まず、清く流れ続けることを祈って挨拶とさせていただきます。

### チャーターメンバー表彰



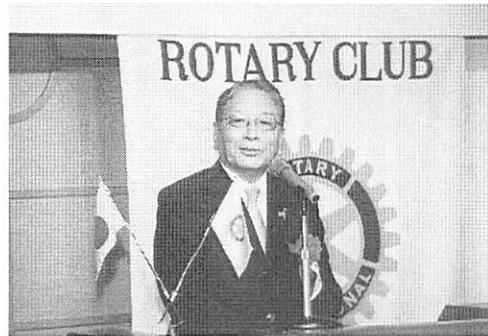
松居敬二君・佐野寛君  
竹内眞三君の3名に表彰と記念品を贈呈

### 記念事業目録贈呈



キャンヘルプタイランド伊藤剛史様へ目録贈呈  
今回の寄付はタイ東北部ロイエット県にあるノンウェン・ブングアーム校の集合場兼食堂の建設資金の一部に充てられます。

### 江崎柳節ガバナー祝辞



名古屋千種ロータリークラブの皆様25周年おめでとうございませう。心よりお祝い申し上げます。

1982年度のRI会長は日本の向笠広次様で、テーマは「人類はひとつ世界中に友情の橋をかけよう」を掲げられ大変記念すべき年に名門クラブは誕生されたのです。

2760地区の中でも学園地区として、優れた住宅地域として、25年の間に非常に多くの指導者の方々により、発展をされた見事なクラブであられると思います。

クラブの環境の多様性と特殊性を見事に生かされ、今では新世代に向かってインターアクト、ローターアクト、青少年交換学生、財団・米山奨学生の受け入れ、派遣、ライラセミナーのホストクラブと積極的に活動いただいております。新世代の育成、それは人類そのものの未来でありますので今後も続けていただきたいと思ひます。

また、先程のタイ北東部の就学促進を支援している「キャンヘルプタイランド」への継続的支援は世界に向かって地域のニーズに答えた見事な奉仕をしております。

今年度宮尾会長はクラブのテーマとして“感謝”を掲げられておりますが、これこそがロータリーのテーマで“奉仕をする者は必ず報われる”報われるという事はその人が無類、比類なき幸せになると言う事でお考えは一緒であります。今年も進化していただいております、更なるご発展を続けられます事をお祈り申し上げますご挨拶と致します。

記念講演

継鹿尾山 寂光院 松平實胤 山主

〈プロフィール〉

昭和21年 名古屋市にて出生

昭和48年 名古屋大学大学院 印度哲学科修了

昭和48年 犬山・継鹿尾山 寂光院山主就任現在に至る

名古屋市民大学を始め全国各地の講座講師を務めユーモアにとんだ語り口の「やすらぎ説法」は多くのファンを持つ。

“大切なもの・大切なこと”



とにかく物騒な時代になりました。いとも簡単に人を殺す、更には子が親を殺す、親が子を殺す、自殺件数は世界第一位です。

かつて日本は安全な国、治安がいい国と世界的な評価を得ていましたが、今では犯罪多発国になってしまいました。そんな現状を踏まえて、今教育の場で、躍起になって模索しているのが、「命を大切にせる教育」です。

昨今教育の現場にお招きを受けて、小学生から、高校生に到るまで、私が訴える内容はいつも同じです。

1. 命って何だ？

生きているということは、息をしているということである。命があるということは息の力がある、生きる力があるということである。

今一瞬のこの吸う息、吐く息はずっとつながっていて途切れたことはない。誰でも生れる直前は母親が代わりに息をしてくれていた。親のない子供はいないから、この息の源を尋ねると人類の起源まで確実にさかのぼる。人類はあまたある生物の中から登場したのであり、この息の源は生命の起源までさかのぼる。生命の起源は地球が生命を生み出す条件を整えたことによる。結局この息の源は地球の起源にまでさかのぼることになる。実に46億年の地球の凡ての条件が整って今私のこの一息がある。

人は誰でもみんなこのように命はつながっていて、途切れたことはない。「一人の命の重みはまさに地球と同じ重みがある」といっても大げさな表現ではない。誰でも命はつながっている、生きる力はずっとつながっている。それほどまでに尊い命である。だから命を大切にしなければいけない。

- 2. 命一個、人生一回、失ったら二度と再生、巻き戻しができない。だから大切にしなければいけない。
- 3. 人間は必ず死ななくてはならないという「有限性」、いつ死ぬかわからないという「危機性」の狭間で生きる。例外はいっさいない。

まさに「今ここに命あるは有り難し」、「今・ここ・私」を大切にしなければいけない。

4. 命には長短がある。

この世には長生きする人もいれば生れてまもなく亡くなる赤ちゃんだっている。となると「俺の命だ、俺の人生だ、俺の好きなようにする」という啖呵は誰も切れなくなる。「俺の命」ならみんな誰でも100歳まで生きればいいじゃないかと言いたくなる。それができないのは「自分で生きているのではない。生かされて生きている」と言わざるを得ない。

結局「大切なもの」は命に決まっている。そして「大切なこと」は自分が生きるのではなく、生かされて生きると言うことに気づくことである。

記念祝賀会



三好実行副委員長の司会進行

鈴木実行委員長開宴挨拶



本日は千種ロータリークラブ25周年記念式典並びに祝賀会に多数の方々にご出席を賜りありがとうございます。

会員26名で創立総会を開催してから25年、10年前より女性会員にも入会頂き、現在61名で創立会長の“あんばいよう”をクラブの特徴として家族の参加も多数あり、和やかなまとまりのあるクラブとなっております。

これより祝宴に入らせていただきます。

では、お時間の許す限りご歓談いただければ幸いです。



佐藤ガバナー補佐より乾杯の御発声を

## 松居初代幹事挨拶



名古屋千種RCは、約2ヶ月の短い期間にて誕生当時、水野民也創立会長より私の父に口添えがあり、幹事を引き受けることとなり、1982年8月16日第1回例会と創立総会をチャーターメンバー26名にて、開催致しました。その後入会された方を含め、会員39名と夫人が参加し、10月19日第10回例会で認証状伝達式を、当日は959名のご来賓に出席を頂き、アトラクションの外山雄三指揮名古屋フィルハーモニーによる“手に手つないで”の伴奏は大変好評を頂きました。

その後、創立5周年を1992年には創立10周年を記念事業として池下駅前に、ブロンズ像「翔」を寄贈、1997年創立15周年ではタイ東北部の就学促進を支援している「キャンヘルプタイランド」へ支援を開始し、現在も続いております。

2002年には20周年記念事業の一環として、東山植物園に万葉の歌碑を寄贈。タイのバン・ライサムシー学校校舎を寄贈、完成式には大口会長が出席。

1995年3月に名古屋第二分区分IMを2002年には東名古屋分区分IMを開催致しました。

また、2000年には第8回ライラセミナーを名古屋市内最初のホストクラブとして開催致しました。

スライドにて25年の記録を

駆け足にて25年を振りかえってみました。全員、まだまだ若くありたいと頑張っています。



子供たちのダンスユニット“チップス”がお祝いに



バックグラウンドミュージックとしてピアノ塚本真木さん・フルート大野智衣さん・ヴァイオリン近藤知世さんが演奏を



事務局太田君に25年の勤務に感謝状と金一封を贈る

## 小杉実行副委員長閉会挨拶



本日はガバナーを始め、ご来賓の皆様、式典・祝宴と長いお時間を暖かい友情によりお陰様で無事終了することが出来ましたことを感謝申し上げます。

本当に有難うございました。

本日の記念として、当クラブ会員佐野寛君の作品をご用意しておりますので受付にてお受け取り下さい。

### ◆出席報告

会員	61 (57) 名	出席	55名
出席率	96.49 %		
前々回	10月2日 (修正出席率)		89.09 %

### ◆ビジター紹介

37名

### ◆ニコボックスは次回掲載させていただきます。

## RI会長よりお祝いメッセージ

名古屋千種ロータリー・クラブ会員の皆様へ

拝啓

貴クラブが25周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

25年前、地域社会への奉仕というロータリーの理想が尊く確かなものであると感じた貴クラブの創立会員が、名古屋市にロータリー・クラブの礎を築かれました。貴クラブは親睦と奉仕を通じて世界にはびこる苦しみを和らげたいと願う人々が集まった素晴らしい組織の一員です。「ロータリーは分かちあいの心」を実践しながら、思いやり、時間、資源を人々と共有するのがロータリーです。

貴クラブが将来に目を向けられるにあたり私からお願い申し上げます。ロータリーを存続させるためには、ロータリーを分かちあう必要があるということです。新会員がいなければ、ロータリーは数十年のうちに消滅してしまいます。そしてロータリーなくしては、私たちの地域社会が

持つニーズの多くを満たすことができません。つきましては、ロータリーを愛する皆さんに、ロータリーにふさわしい人々をクラブへ入会するよう誘い、その愛を分かちあい、ともに奉仕していただけるようここにお願ひする次第です。これは、ロータリーの奉仕の第二世紀を確実なものにするために皆さんができる最も重要なことです。

貴クラブの歴史における重要な節目を祝うと同時に、奉仕がロータリーの心であることをどうか思い出してください。私たちは奉仕を通じ「ロータリーは分かちあいの心」を持って、救いを求める世界中の地域社会の人々と、ロータリーの力と資源を共有します。奉仕は、ロータリーの真の魔力なのです。

今年度、ロータリーの親睦の輪に新会員を迎え、「超我的奉仕」を実践し、ぜひ一緒にロータリーを分かちあいましょう。

敬具

*Schiff* ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
2007-08年度RI会長

次回例会

平成19年10月29日(月)

ガバナー公式訪問

ウェスティンナゴヤキャッスル